

2025 年度 学校法人 三幸学園 横浜医療秘書&IT 専門学校 自己評価

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 由香

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度重点施策振り返り

【教務】

退学率

・2024年度7.2%から2025年度は6.6%に低減。ゴールデンウィーク明けからハイフレックス授業を導入したことで、退学防止につながった学生が数名いた。在籍者の3分の1以上が通信制高校出身者であり、毎日学校に登校することへの不安感や身体的な問題から依然として課題である。

・1年次前期、医療機関の方をお呼びし、外部会場で講話を実施。目標喪失とならないよう、早い段階から職業イメージをつけるようにした。

授業アンケートの向上

・項目「この授業では開始時、終了時の挨拶が徹底できていましたか」

2024年 3.72 ⇒2025年 3.74 +0.02となった。

・項目「この授業では質問や意見がしやすかったですか」

2024年 3.49 ⇒2025年 3.53 +0.04となった。

→授業アンケートは年々微増傾向にある。一方で医療分野全体の平均からは差異があるため今後も魅力ある授業展開を講師へ全体会議での周知や研修の実施で全体の底上げをする必要がある。

【広報】

・新学科の新設に伴い、全体では約+30名増となった。

一方で医療秘書科の募集は約-20名。診療情報管理士科は+12名。

今後は医療分野の魅力をより多くの入学希望者へ広く伝え続けていく必要がある。

・内部進学者(三幸学園内)での入学生の割合も年々増加傾向となっている。

【就職】

2025年度 就職率100%

5月には医療機関説明会を実施し、延べ25件以上の医療機関の方、卒業生にお越しいただいた。

病院の説明だけでなく、卒業生が来校し話すことで医療業界での働くやりがいや魅力が学生たちにも伝わる良い機会となった。

実習においては、実習前に決起会を実施。医療機関の方をお呼びし講話をいただくことで、現場の方からのリアルな目線を知り、心構えを学ぶ良い機会となった。

一方で、医療秘書科において参加を希望しない学生も増加傾向にあり、実習の目的や意義を学校全体で教職員が伝え続けていく必要がある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

医療業界の職業観を伝え、将来構想をイメージさせることが難しい。

特に、1年次は基礎であり今の学びが現場にどう結び付くのか伝わりきらず、目標喪失となる学生が多い。

① 今後の改善方策

特に、1年次に多くの職業観をイメージするような機会を増やしていく。

医療機関の方、卒業生からの話を聞く機会を増やす。

また教職員が多く医療機関へ訪問し、現場の声を HR 内で伝えていく。

② 特記事項

なし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

2024年度から人事制度が変更。新制度で現在運用している。自己評価と学校が求める業務の質やスピードに相違があることがある。

ハイフレックス授業などで、学生の出席管理の業務負担。また、欠席者の増加による業務過多が生じている。

② 今後の改善方策

担任会議で継続的に制度理解を深め求める資質を伝え続けていく。

講師との連携をより強化し、タイムリーな情報共有をする。

グーグルチャットを活用し、学生への伝達をより簡素なものにしていく。

③ 特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

診療情報管理士、医療事務における講師が不足しており、通年して募集をしているが集まらないのが現状。
常勤メンバーの若年化、分野以外からの異動者により、医療分野における業界の理解不足と知識の習得が課題。

② 今後の改善方策

姉妹校からの兼務は引き続き依頼をする。また、学校単独での採用強化の為、求人サイトへの掲載。卒業生・医療機関の方からの協力も仰いでいきたい。

全体会議などで職員に向けた研修の機会を継続的に実施する。

医療機関への訪問の機会を増やし、学生へ伝えられる知識や話の材料を増やす。

医療分野の経験のない異動者・新入教職員は、三幸グループの医療事務通信講座で資格を取得させる。

③ 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

入学者の学力不振や勉強法の分からない学生の増加。

一部の卒業生の動向は把握できているが、卒業後に疎遠になってしまう卒業生も多い。

② 今後の改善方策

放課後の無料補講（スタディーサポート）への促しを強化し、教科チーフと講師・担任と連携し資格取得に向けた指導方法の目線合わせや情報交換を積極的に行う。

同窓会幹事の発足により連携を強化し、定期的な卒業生へのアプローチや同窓会の開催を通して学校に来る機会を増やしていく必要がある。

SNS などにも教職員を載せることで、知っている先生がいることで来校機会にも繋がる為、継続的に実施をしていく。

③ 特記事項

なし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

常勤メンバーの業務負荷により、学生からの相談に十分に時間を取って面談ができない。

また、知識や経験不足から適切なアドバイスや納得のいく方向へ導いて行けていない現状がある。

スクールカウンセラーが毎週来校するが、時間割や時間帯に制限があり、利用できない場合もある。

② 今後の改善方策

授業に関わる講師との連携強化で学生の変化を日々タイムリーに情報共有していく。

オンラインや電話でのスクールカウンセラーとの面談も積極的に促していく。

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

学生増加に伴う教室不足。

放課後や休み時間に教室以外でのフリースペースが不足している。

学校で勉強したくても、教室がなく促しができない。

実習に行くことの目的や意味を理解できず、参加を希望しない学生の増加。

③ 今後の改善方策

同じ校舎の飛鳥未来関内キャンパスにも協力を仰ぎ、教室が不足する場合は互いに貸し出す。

早い段階からの実習や医療現場の動機づけを、HR や授業内でもおこなっていく。

担任会議でも、統一した事前指導ができるよう目線合わせをおこなう。

② 特記事項

なし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適正に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

医療分野における魅力ややりがいの認知拡大が必要である。

② 今後の改善方策

業界の方や卒業生に来校していただくイベントを設け、高校生に職業イメージや現実味のある話が聞ける機会を多く増やして拡大を狙いたい。

③ 特記事項

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

継続した法令順守の推進。

② 今後の改善方策

学園全体でのコンプライアンスオンデマンド研修が全教職員に必須とされ、今後も継続的に会議などで周知をしていく。

④ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

地域との学生トラブルはないが、地域における学校の貢献度は不十分である。

② 今後の改善方策

2026年度より町内会に加入。今後は地域とのイベントに教職員と学生と一緒に参加をしていく。
学校・学生の魅力を地域の方に理解していただき、認知拡大をしていく。

③ 特記事項

なし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

2026年度より留学生の受け入れ開始。

言語や文化の違いにより留学生に対してのルールやマナーへの理解周知が課題。

出席率により、在籍の継続が困難になる学生が出てくるため継続した登校の指導が必要である。

② 今後の改善方策

留学生目線に沿った伝え方や指導の改善。

こまめな出席管理と担任と申請取次人職員との連携強化。

教職員への留学生指導への理解を会議などで増やしていく。

③ 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・医療分野の魅力・認知拡大

医療分野の入学者をやすことが界全体の人材確保や活性化となるため、教職員の業界理解を深め学生・高校生へ伝え続けていく。

医療機関・卒業生へのお力添えをいただくことで認知拡大をしていく。

- ・通信制高校出身者への指導

在籍者の3分の1以上が通信制高校出身者となり、今後の学生指導はより個々に合わせた指導が必要となる。ハイフレックス授業やオンライン授業を継続して実施し、選べる授業スタイルを学生に提示し退学低減を図っていく。

また、学生の個々への対応力も強化し、伝え方、教えるスキルを今後も研修や良い事例の取り組みを学内で共有していくことで、指導力や授業力向上に繋げていく。

- ・魅力ある授業展開

授業スタイルが多様化する中で、授業の質は落とさずに魅力ある授業展開をするためのツールや情報を教職員同士で共有し合い、授業力向上を図っていく。